

小1国語 出題のねらいと対策

1 ひらがな 95.8%

ねらい：ひらがなの正しい使い方についての知識を問う。

分析と対策：ひらがなを読む問題です。「は」と「ほ」, 「き」と「さ」, 「ね」と「れ」, 「い」と「り」, 「る」と「ろ」などのように形の似た字は、読み間違える可能性があるがあるので注意が必要です。

2 ひらがなをかく 95.0%

ねらい：ひらがなの書き方について知識を問う。

分析と対策：小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」「っ」は、書く大きさや書く位置に注意し、「ゃ」「ゅ」「ょ」「っ」との違いを確認してください。「えんぴつ」や大問1の「ふたご」「しんぶん」など、音が濁る場合の表記に注意して、書く練習を行ってください。その際、濁音と半濁音を混同しないよう注意してください。ひらがなを書く練習をするときは、手本となる字をしっかりと見て、それを正確に写すところから指導してください。

3 ただしいぶん 85.4%

ねらい：ひらがなの正しい使い方についての知識を問う。

分析と対策：「オー」と伸ばす音、オ段長音の表記は、原則として「べんきょう」「いもうと」のようになりますが、「こおり」「おおかみ」「とおい」などの例外もあります。「を」と「お」, 「は」と「わ」, 「へ」と「え」の使い分けにも注意をしてください。

4 くとうてん 34.6%

ねらい：句読点についての知識を問う。

分析と対策：まず、句点（。）が必ず文末にくることを確認します。次に、読点（、）が文に区切りを入れる符号であることを意識させます。

読点を打つ位置については、「声に出して読むときに、どこで間をとるとわかりやすいか」と考えさせるのがよいでしょう。長い文章を句読点なしで書いたり、区切りなしで朗読したりするなどして、区切り符号がないと、文章が不自然になってしまうことに気づかせましょう。

原稿用紙に書く場合の、句読点や符号の表し方も確かめておくといでしょう。どのような符号も、原則として一字一マスをとります。例外として、行の終わりに最後の字と句読点がきたときは、その字と句読点を一緒のマスに書きます。また、かぎかっこを閉じる符号と句点とを一緒のマスに書く場合もあることを理解させましょう。

全体の平均点は 76.0点です。大問別テーマのうしろの数字は、全体の大問別正答率です。個人成績表を見ながら、不得意テーマに対する今後の学習の方針を見つけましょう。